

生活単元学習指導案

学級：特別支援学級
対象：1年1人 3年2人 計3人
場所：特別支援学級教室
指導者：教諭 川尻 友美

1 単元名 「みんなで協力して発表しよう」

2 単元について

(1) 単元設定の理由

〈生徒の実態〉

本グループは、1年生1人、3年生2人の3人で構成されている。生活単元学習の時間にこのグループで活動することは少ないが、それぞれが学年ごとに生活単元学習に取り組んでいる。

これまでも、歓迎会の企画・立案・運営をしたり、学年行事である職場体験や修学旅行、集団宿泊学習の準備や振り返りの学習をしたりしてきた。しかし、みんなの前で発表することに抵抗を感じている生徒が多く、相手に伝わるように発表できなかつたり、自信をもち、堂々とした態度で発表することが難しかったりする。また、自閉症・情緒障害特別支援学級の生徒は、自分の思いどおりにならないときに、相手のことを考え、受け入れながら協調して活動することが難しい。これは、学習内容についての見通しが十分でず、失敗することに対しての不安が強いことや、みんなで協力して取り組むことの良さや表現することの喜びを感じる経験が少ないことが考えられる。

〈活動の意義・価値〉

このような生徒たちの実態を踏まえて、本単元では、行事単元である「みんなで協力して発表しよう」に取り組む。この単元は、発表内容を検討したり、役割分担をしたり、学習計画を立てたりすることで、11月に開催する「合唱コンクール」での発表について具体的な目標や見通しをもって活動することができる。また、これらの活動は、それぞれが得意なことがあることに気づき、自信をもってそれを発揮し、お互いの良さを認めながら活動することができる。そして、「発表」という目標に向かって、どう表現すれば相手に伝わるか。作曲者のメッセージを視聴し、作曲者の意図を考え、それを表現に活かすには、何を工夫するかを考えることで、相手の立場を意識しようとする態度を育てることが期待できる。これらの一連の活動を通して生徒たちが主体的に協同して取り組む態度の育成や、発表という場を通して、成功体験が期待でき、今後の活動意欲を高めることにつなげることができる。また、自閉症・情緒障害特別支援学級の生徒にとっては、自立活動における個々の課題に焦点を当てて学習を進めることができる活動である。「人間関係の形成」や「コミュニケーション」の観点から、友達の良さに気付いて活動することで、他者を認めることの経験を積むことができ、生徒同士で話し合いをすることで、相手の意見を聞き入れ、互いを認め合い、相手の気持ちを考えた対応をする体験ができる。これらの活動を通して、他者と適切に関わる力を向上させ、協調的に人と関わろうとする意欲や態度にもつながっていくものと考えられる。

〈ねらい〉

そこで本単元では、11月に開催する「合唱コンクール」での発表に向けて学習計画を立て、計画にそって学習を進める。また、「合唱コンクール」での発表までに準備することや当日の発表に見通しをもち、成功させるためにどうしたらよいかをみんなで考え活動させるようにする。そして、互いに協力して一つのことを成し遂げることの意義や素晴らしさを体験し、気付くことができるようにする。また、学習を進めるなかで出てくる課題について話し合いをすることで、自分の考えを伝えたり、友達の意見を取り入れたりする経験をすることができ、コミュニケーション能力を高めさせるようにする。さらに、作曲者の気持ちを知ることで、目の前の他者だけでなく、作品を通して他者理解を深めさせるようにする。

〈指導観〉

まずは、昨年度の発表をVTR等で振り返りながら、今年度の発表内容を検討したり、役割分担をしたりすることで、発表への期待感を高める。次に、カレンダーで確認しながら学習計画を立て、学習計画にそって学習を進めることで、見通しがもてるようにする。また、自分たちが話し合った内容を後で振り返りやすいように、ワークシート等を活用し、協力しながら発表に向けて準備していく楽しさを味わわせる。さらに、作曲者の気持ちを知ること、その意図をどう発表に活かすかについて考え、作品を通した他者理解を深めさせる。そして、「合唱コンクール」当日は、今までの学習を意識しながら発表し、成功体験をすることで、表現することの喜びを感じ取らせ、達成感を味わわせる。

〈展望〉

このような学習を通して、生徒たちは、見通しをもって計画的に学習を進め、今後の活動に主体的に協同して取り組むことができるようになっていくと考える。また、協力すること良さや表現することの喜びを味わい、いろいろな場面で、自信をもって発表することができるようになることが期待できる。そして、作曲者の気持ちに触れ、話し合い活動をすることで、相手を意識し、自分とは違う考えを理解しようとする態度の育成につながり、他者と適切に関わることができるようになっていくと考えられる。

(2) 生徒の実態

観点	A (1年・男)	B (3年・男)	C (3年・女)
関心・意欲	<ul style="list-style-type: none"> 音楽的な内容は関心が高く、楽しみながら取り組む。 発表はできるが、考えをまとめて発表することは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間いっぱい取り組むことが難しく、早く終わらせたいという気持ちから、雑な取組になりがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽的な内容は、楽しみながら取り組むことができる。 決められたことの発表はできるが、小声である。
協調性	<ul style="list-style-type: none"> 周りのことが考えられず、自分のペースで活動しがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> 言われたことはできるが、相手のことを考えた言動を取ることは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなで取り組みたいという気持ちは強いが、具体的にどうしたらよいか分からないことがある。
感情の理解	<ul style="list-style-type: none"> 自分の感情を客観的に理解することが難しく、自己中心的な行動をとることがある。 相手の話を最後まで聞くことが難しく、相手の気持ちをなかなか受けとめきれない。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちを深く考えず、思ったことをそのまま言ってしまうことがある。 真面目にすることが苦手で、時々わざとふざける様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 慣れた人には、自分の思いを話すことができる。 相手のことを考えて、我慢することが多く、自分の感情を表すことは少ない。
伝え方	<ul style="list-style-type: none"> 慣れた人には、自分の気持ちをそのまま伝えてしまう。 目上の人には、丁寧な言葉遣いを遣うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小集団の中では、自分の意見を伝えることができるが、集団が大きくなり、改まった場では、伝えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分から意見を言うことは少ないが、質問されると答えることはできる。

3 単元の指導目標

- 発表に見通しをもち、成功させるために気を付けたらよいことをみんなで考えながら活動できる。 【協同】
- 発表を成功させるための話し合い活動をすることで、自分の考えを伝えたり、他者の意見を取り入れたりするなどのコミュニケーション能力を高めることができる。 【コミュニケーション】
- 作曲者の気持ちを知り、発表にどう活かすかについて考えることができる。 【他者理解】

4 単元の指導計画（総時数 30 時間）

次	時間	学習活動・内容	準備等
一	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 合唱コンクールでの発表について知る。 ・ 昨年度の発表の様子を視聴する。 ○ 発表内容の検討と役割分担をする。 ・ 発表内容や必要な係について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ カレンダー ・ 写真またはVTR ・ ワークシート 等
二	25 本時 (19/25)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 合唱コンクールでの発表に向けた準備をする。 ・ 学習計画表を作成する。 ・ 係分担表を作成する。 ・ 発表の練習をする。 ・ 発表の仕方、鑑賞のマナーについて確認する。 ・ 中間発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広幅用紙 ・ 油性ペン ・ ワークシート ・ 色画用紙 ・ はさみ ・ 楽譜 等
三	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 合唱コンクールでの発表をする。 ・ 発表の仕方を意識して発表する。 ・ 鑑賞のマナーを守って鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽譜 等
四	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 合唱コンクールでの発表を振り返る。 ・ 今年度の発表の様子を視聴する。 ・ 友達と協力して良かったことなどを発表する。 ・ 来年度に向けて頑張りやすいことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真または VTR ・ ワークシート 等

5 本時の実際（二次：19/25）

(1) 全体目標

- 学習計画にそって学習内容を確認し、演奏上の自分の役割を考え、友達と協力して学習できる。
- 作曲家からのメッセージを聴き、感じたことをどう表現するかを考え発表に活かすことができる。

(2) 個人目標

生徒	学年	個人目標
A	1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の意見を最後まで聞き受けとめて、自分のパートを練習することができる。 ・ 作曲者の気持ちを受けとめ、発表での工夫点を考えることができる。
B	3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と一緒に、時間いっぱい活動に取り組むことができる。 ・ 自分の意見を適切な言葉や声量で伝えることができる。
C	3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進行表を活用し、リーダーとして話し合い活動を進めることができる。 ・ 本時の課題を意識し、相手に伝わる適切な声量で自分の意見を言うことができる。

(3) 指導及び支援に当たって

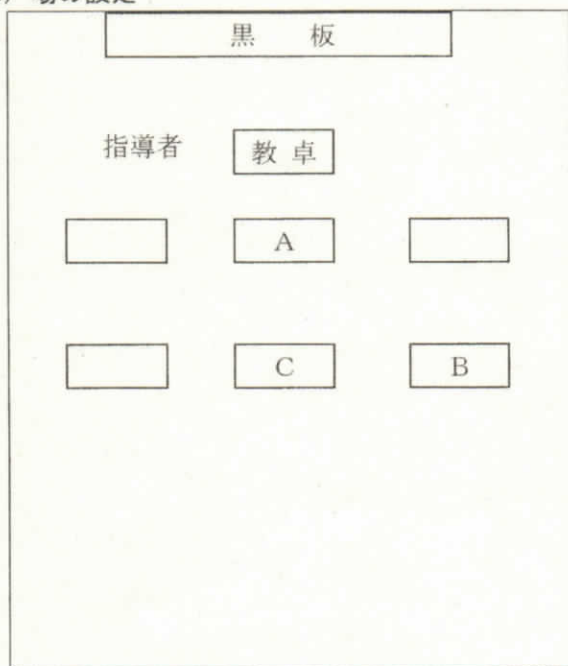
生徒たちは前時まで、昨年度のVTR等を見たり、発表内容を検討して役割分担をしたり、学習計画表を作成したりすることを通して、「みんなで協力して発表しよう」での学習内容について見通しをもって取り組んできている。また、一緒に発表するメンバーを増やすために、有志募集のチラシ作りをして、各学級担任にチラシの掲示のお願いに行ったり、交流学級の帰りの会等で募集内容の説明をしたりして、コミュニケーションを図ることや協同で取り組むことの必要性を感じながら、発表に向けての意識や意欲が高まってきている。

そこで本時では、作曲家のメッセージを視聴し、感じたことをどう表現に活かすかを考え、発表について具体的に考えるために話し合い活動を行う。具体的には作曲家のメッセージを視聴した後、リーダーの司会で話し合い活動を行い、工夫したい点を二つ決められるようにする。作曲家のメッセージから感じたことを発表したり、作曲家の意図が理解できるように、教師が必要に応じて言葉掛けや質問をしたりしながら、具体的な工夫点を決め、表現に活かせるようにする。その後、話し合って決めた工夫点を意識しながら、練習できるようにする。作曲家の気持ちを理解し、相手に伝わる発表になるように、教師と一緒に担当するパートでの工夫点を確認しながら練習できるようにする。

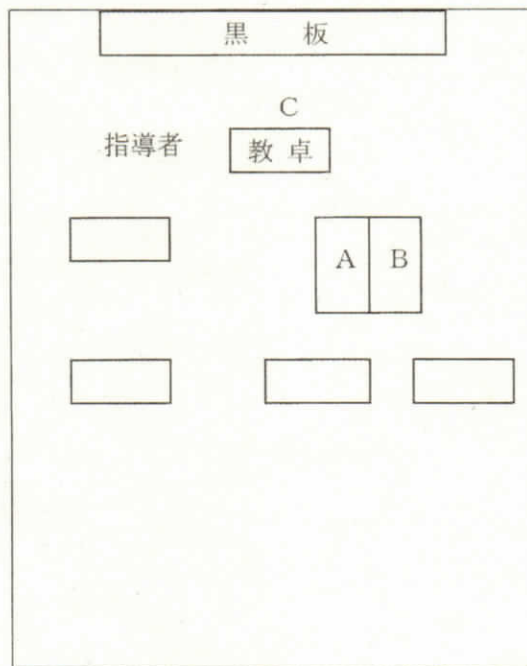
(4) 実際

過程	時間	学 習 活 動	指導上の留意点	備 考
導 入	5 分	1 はじまりの挨拶をする。 2 前時の学習を振り返る。 3 学習課題を確認する。 作曲者の気持ちを知り、発表に活かそう	<ul style="list-style-type: none"> リーダーの号令で姿勢を正して挨拶ができるように、学習の始まりを意識させる言葉掛けをする。 前時までの学習を意識させ、発表に向けて意欲を高めさせるために、学習計画を教師と一緒に確認する。 作曲者のメッセージを視聴することを伝え、本時の学習課題を意識させ、内容に見通しをもつことができるようにする。 	学習計画 自己評価表 本時の予定
展 開	40 分	4 発表の練習をする。 5 VTRで作曲者のメッセージを視聴し、発表をするときに工夫したいことを考える。 (1) リーダーの司会で話し合い活動をする。 (2) 発表で工夫したいことを二つ決めホワイトボードに記入する。 6 練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> 適度な緊張感をもって臨ませるために、本番と同じ気持ちで通して練習することを伝える。 相手の意見のポイントをつかめるように、タイミングをみながら、質問をする。 工夫したいことをホワイトボードに記入することで、それぞれが意識できるようにする。 担当するパートを教師と一緒に確認しながら、練習できるようにする。 相手に伝わる発表になるように、工夫したいことを確認し、それぞれが意識できるようにする。 	TV, VTR 進行表 ホワイトボード
終 末	5 分	7 今日の学習について振り返る。 ・今日の練習のよかった点、改善したい点を考え、発表する。 8 次回の学習について確認する。 9 終わりの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> 工夫したことなどの発表ができるように、教師と一緒に確認し、今日の学習について振り返る。 工夫したことが相手に伝わる発表になるように、工夫したい点を意識して、残りの練習に取り組むことを伝える。 リーダーの号令で姿勢を正して挨拶ができるように、学習の終わりを意識させる言葉掛けをする。 	自己評価表

(5) 場の設定



導入・終末：特別支援学級（ひまわり）



展開：特別支援学級（ひまわり）

(6) 評価

ア 全体目標

- 学習計画にそって学習内容を確認し、演奏での自分の役割を考え、友達と協力して学習できたか。
- 作曲者からのメッセージを聴き、感じたことをどう表現するかを考え発表に活かすことができたか。

イ 個人目標

生徒	学年	個人目標	評価	教師の手立て	評価
A	1年	・ 友達の意見を最後まで聞き、受けとめて、自分のパートを練習することができたか。		・ 意見を最後まで聞くように言葉掛けをし、ポイントを伝え、理解させたか。	
		・ 作曲者の気持ちを受けとめ、発表での工夫点を考えることができたか。		・ 作曲者の気持ちを詳しく伝え、理解させることができたか。	
B	3年	・ 友達と一緒に、時間いっぱい活動に取り組むことができたか。		・ 集中すべきところで、言葉掛けができたか。	
		・ 自分の意見を適切な言葉や声量で伝えることができる。		・ 言葉や声量を意識できるようにアドバイスができたか。	
C	3年	・ 進行表を活用し、リーダーとして話し合い活動を進められたか。		・ 意見をまとめるように促すことができたか。	
		・ 本時の課題を意識し、相手に伝わる適切な声量で自分の意見を言うことができたか。		・ 声量について視覚的に支援することができたか。	

[評価基準：◎…達成できた ○…一部達成できた △…達成できなかった]